

知林ヶ島の鳥類調査

山元幸夫

An Ecological Survey of Birds on Tiringasima Island, Kagoshima Prefecture

Yukio YAMAMOTO

はじめに

鹿児島湾内には小さな無人島がいくつか点在しているが、つい最近まで、これらの島々に生息する生物にはほとんど目が向けられることはなかった。ところが、1999年に桜島の沖合の沖小島においてウチヤマセンニュウの繁殖が確認されて以来、関心が高まってきている。

そこで、筆者は鹿児島湾の指宿市沖合の知林ヶ島（ちりんがしま）において、平成12年6月、8月、平成13年2月に鳥類の調査を行ったので、その結果を報告したい。知林ヶ島の鳥類に関する調査報告等は見あたらないので、おそらく今回が初めての調査と思われる。なお、この調査を行うに当たり、渡船などに便宜を図っていただいた指宿市の関係者の方々に感謝いたします。

I 調査地の概要

知林ヶ島は、指宿市田良岬の北東約1kmの沖合に浮かぶ周囲約3kmの小さな無人島である（図1）。大潮の干潮時にはここから砂州でつながり、歩いて島に渡ることもできる。植生はいたって単純で、島の大半はメダケで被われ、所々にシイ類などの小群落が点在するにすぎない。したがって鳥類の生息環境としては乏しく、メダケの藪、照葉樹の小群落、海岸部の岩礁地帯の3つに大別されるぐらいである。

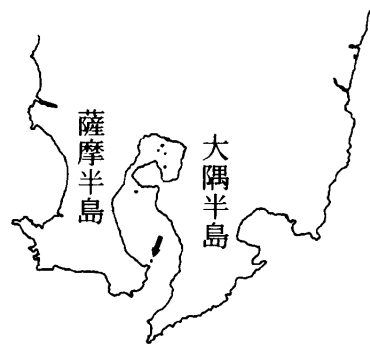


図1 知林ヶ島の位置

II 調査方法と調査地点

調査は、ルートセンサス法と定点観察法により行った。センサスルートには、船着き場から灯台に至る約1.2kmの林道を設定し、毎時2kmほどの速さで歩きながら、林道をはさんで約50m幅内に出現した種（鳴き声による確認も含む）をすべて記録した。このルート沿いには、照葉樹が混ざるメダケの藪が広がっている。定点観察地点は、船着き場付近の岩礁帯、灯台付近の断崖、それに島の南部の砂浜周辺の計3ヶ所に設け、これらの地点において約1時間で確認できたすべての種を記録した。これらのセンサスルートと定点観察地点は図2に示した。

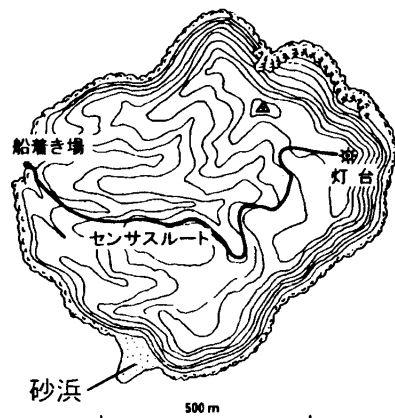


図2 調査地点

Ⅲ 調査結果

1 第1回調査：平成12年6月9日，10日(天候：雨)

ルートセンサス(6月9日 14時～14時40分)の結果，出現したのはウグイス1種のみ7羽で，他の種は皆無であった。ウグイスの個体群密度は高く，島内のいたるところでさえぎっていた。巣および卵の確認にはいたらなかったが，巣立ち後間もない幼鳥2羽を確認した。

灯台付近での定点観察(6月9日 15時30分～16時30分)では，ツバメ42羽，トビ16羽，アマツバメ3羽，ハシブトガラス2羽を確認した。いずれも島の上空を飛んでおり，一時的な通過であった。

船着き場付近での定点観察(6月10日 9時～10時)では，クロサギ1羽，アオサギ1羽，イソヒヨドリ2羽，トビ3羽を確認した。トビは上空を帆翔していたが，それ以外は岩礁で羽を休めたり，餌を捕ったりしていた。

第1回調査で確認されたのは8種であった。いずれも本県では普通に見られる種である。これらを渡りで類別すると，鹿児島県においてはアマツバメが旅鳥で，それ以外の7種はすべて留鳥として普通に繁殖している。図3に，第1回調査で確認された全種とその観察地点を示した。

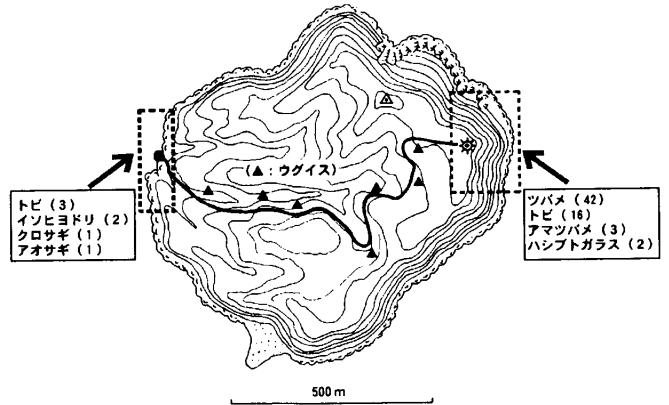


図3 6月における記録種と出現地点

2 第2回調査：平成12年8月28日(天候：晴れ)

ルートセンサス(10時30分～11時10分)の結果，出現種はウグイスのみで3羽を確認した。6月の調査時に比べ，個体数は少なく，さえぎりもほとんど聞かれなかった。

灯台付近での定点観察(12時30分～13時30分)では，トビ15羽，ツバメ20羽を記録した。これらはいずれも上空を通過したものである。

船着き場付近での定点観察(14時15分～15時15分)では，アオサギ1羽，クロサギ1羽，トビ4羽，イソヒヨドリ3羽(うち2羽は幼鳥)，カツオドリ1羽を確認した。

砂浜周辺では，キアシシギ3羽，イソシギ1羽，キセキレイ1羽を確認した。

第2回調査で確認されたのは10種であった。これらを渡りで類別すると，本県ではキアシシギが旅鳥で，それ以外の9種はいずれも留鳥として繁殖している。図4に，第2回調査で確認された全種とその観察地点を示した。

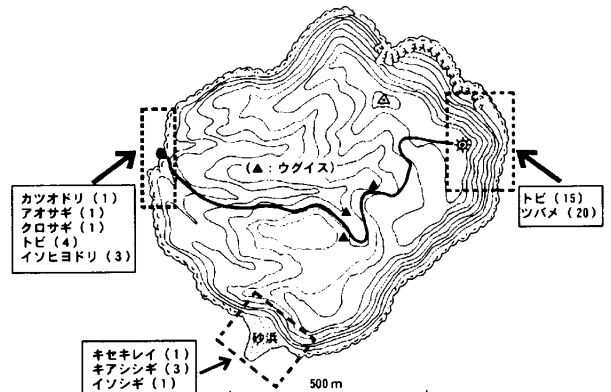


図4 8月における記録種と出現地点

3 第3回調査：平成13年2月19日（天候：晴れ時々曇り）

冬季の調査をするために3回渡島を企てたが、いずれも荒天により実施できなかった。やむを得ず、知林ヶ島の対岸の魚見漁港岸壁から倍率60倍の望遠鏡を用いて、船着き場周辺と砂浜周辺の定点観察のみを行った。

船着き場周辺（10時～11時）では、カワウ12羽、セグロカモメ5羽、ウミネコ3羽、カンムリカイツブリ1羽を確認した。カワウとカンムリカイツブリは泳ぎながら採餌をしていた。また、セグロカモメとウミネコは、付近の海上を飛んでいた。

砂浜周辺（11時～12時）では、カワウ4羽、トビ2羽、ミサゴ1羽を確認し、いずれも降りていた。

第3回調査で確認されたのは6種であった。

これらを渡りで類別すると、本県ではカワウ、セグロカモメ、カンムリカイツブリの3種は冬鳥で、ウミネコ、トビ、ミサゴの3種は留鳥である。いずれも本県では普通にみられるが、ミサゴは環境庁編レッドデータブックでは、準絶滅危惧種に挙げられている。図5に、第3回調査で確認された全種とその観察地点を示した。

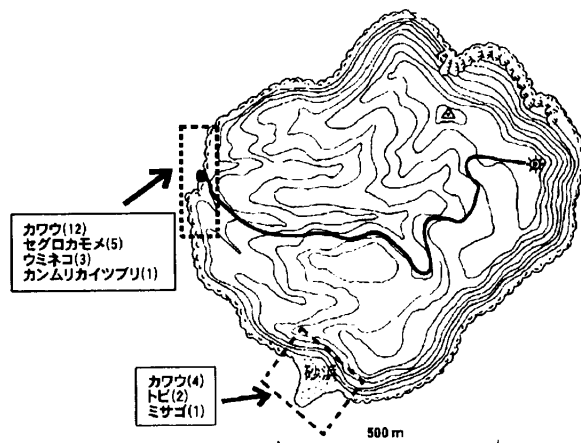


図5 2月における記録種と出現地点

IV 鳥類相について

今回の調査は、船で島に渡らなければならない不便さや、歩行困難な地形などにより、調査の回数、時期、範囲などにおいて不十分な面があった。特に冬季に島に渡れず、島内部での調査ができなかったのは記録種数に影響しているものと思われるが、知林ヶ島の鳥類相については概略以下のようにまとめられる。

- 1 確認された種は17種と少なく、また、その大半は島の上空や周りの岩礁および海上に一時的に現れたものであった。鳥類の生息地としての知林ヶ島の自然環境の単純な構成がその要因と考えられる。
- 2 確認された種のほとんどは指宿市近郊で見られる種と大差はなかった。島が本土からわずか1kmしか離れていないため、ほとんどの種は近辺の地域からの一時的な飛来であると考えられる。なお、人が住んでいないため、スズメは生息していなかった。
- 3 繁殖している可能性がある種としては、ウグイスが挙げられる。ウグイスは、県本土に比べ生息密度が高く、島内に50羽前後が生息していると推測される。巢の確認にはいたらなかったが幼鳥を確認したので繁殖の可能性が高い。
- 4 天然記念物や種の保存法に定められた特殊な鳥類は確認されなかったが、環境庁により準絶滅危惧種に指定されているミサゴが観察された。しかし、ミサゴの繁殖に適した急峻な断崖がないので、島内での繁殖の可能性は低く、一時的な飛来であると考えられる。

V 鳥類リスト (全17種)

科名・種名	6月	8月	2月	備考
カイツブリ科 Family Podicipedidae				
カンムリカイツブリ <i>Podiceps cristatus</i>			○	冬鳥
カツオドリ科 Family Sulidae				
カツオドリ <i>Sula leucogaster</i>		○		県内で繁殖
ウ科 Family Phalacrocoracidae				
カワウ <i>Phalacrocorax carbo</i>			○	冬鳥
サギ科 Family Ardeidae				
クロサギ <i>Egretta sacra</i>	○	○		県内で繁殖
アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	○	○		県内で繁殖
タカ科 Family Accipitridae				
ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>			○	県内で繁殖
トビ <i>Milvus migrans</i>	○	○	○	県内で繁殖
シギ科 Family Scolopacidae				
キアシシギ <i>Heteroscelus brevipes</i>		○		旅鳥
イソシギ <i>Actitis hypoleucos</i>		○		県内で繁殖?
カモメ科 Family Laridae				
セグロカモメ <i>Larus argentatus</i>			○	冬鳥
ウミネコ <i>Larus crassirostris</i>			○	県内で繁殖
アマツバメ科 Family Apodidae				
アマツバメ <i>Apus pacificusi</i>	○			旅鳥
ツバメ科 Family Hirundinidae				
ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	○	○		県内で繁殖
セキレイ科 Family Motacillidae				
キセキレイ <i>Motacilla cinerea</i>		○		県内で繁殖
ツグミ科 Family Turdidae				
イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius</i>	○	○		県内で繁殖
ウグイス科 Family Sylviidae				
ウグイス <i>Cettia diphone</i>	○	○		知林ヶ島で繁殖?
カラス科 Family Corvidae				
ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>	○			県内で繁殖

おわりに

今回の調査では、春と秋の渡りの時期の調査が欠落したり、島の西側海岸部など物理的に調査が困難な場所があったりして不完全なところがある。また、ウグイスが周年生息しているのかどうか、不明な点も残った。これらの結果をもとに、さらに継続して調査を行い、この島の鳥類相を明らかにしたい。

参考文献

- 所崎 聡・山元幸夫. 1999. 鹿児島県産鳥類リスト. 鹿児島県立博物館研究報告第18号
21-42.
- 鹿児島県. 1987. 鹿児島県の野鳥.
- 鹿児島県. 1975. 鹿児島島の野鳥.